

授業カブラッシュアップ[®]研修会Ⅰ・Ⅱ



学習指導要領の趣旨や、学習定着度状況調査等の結果を踏まえ、授業における言語活動の充実に視点を置いた学習活動や学習評価の在り方等を改善するための提案授業・講義・演習を実施しました。

今回は、9月に実施した中学校道徳と10月に実施した中学校国語の研修会の様子を紹介します。

中学校 道徳

「考え、議論する」道徳の授業による生徒の道徳性の育みを
目指して ～自分とのかかわり・他者との交流を通して～

(1)提案授業

「白い花(かけがえのないきみだから・学研)」第2学年
授業者：金ヶ崎町立金ヶ崎中学校 教諭 伊藤 彩
助言者：秋田公立美術大学 教授 毛内 嘉威

★自己を見つめるための発問の工夫

- ・今回の授業では、自分ならどのように行動するか、実践するかを考えることで、自己を見つめ直すことをねらいとした。自分とのかかわりに焦点化することで、生徒が主体的に道徳的価値について考えるきっかけにしたかった。今回は、主語を「あなた」から「旅人」に変えることで、生徒の内面を引き出し、違いに気づかせたいと考えた。

★自分とは異なる意見と向かい合い議論する場の設定

- ・自分と異なる意見と向かい合い議論する場面の設定により、自己の生き方についての考えを深めることをねらいとした。生徒は、議論する中で考えが広がったり、深まったり、認められたり、磨かれたりするものと考えた。多面的・多角的思考を促すことで、道徳的価値に気づかせ、理解を深めるための場の設定を目指した。今回は、4人グループで他者との交流を実施した。



(2)講義 講師：秋田公立美術大学 教授 毛内 嘉威

1 評価について

児童生徒がいかにか成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視することなど、また、ファイル等を活用し作文やレポートなどを集積して学習状況を把握することが大切。

2 これからの道徳について

どのような資料においても登場人物の変容を考えていくことで、授業のねらいや道徳的価値に迫ることができる。そこにポイントを置いて授業を組み立てていくことで、魅力的な道徳科授業への取組がなされていく。



中学校 国語

根拠を明確にしながら自分の考えを表現することができる
生徒を育成する授業の在り方

(1)提案授業

「君は『最後の晚餐』に魅力を感じたか？」第2学年
授業者：一関市立磐井中学校 教諭 井上 栄光
助言者：県南教育事務所 指導主事 皆川 晃宏

★学習課題とまとめ

- ・学習課題の解決に向けて生徒が思考し、筆者の意図について叙述を根拠に自分の考えをまとめることをねらいとした。まず、生徒がどのようにまとめるとよいかを教師が明確にもつために、「予想される生徒のまとめ例」を指導案に明記した。授業では、筆者の意図を考える際に、「一つの要因」という言葉を手がかりに、どの叙述に着目すればよいか気付かせたいと考えた。

★協働的な学び

- ・ペア、グループ、全体という形で学び合いを行った。ペアで、筆者の意図を考える際の根拠となる叙述を見付け、グループで根拠となる叙述を確認しながら、筆者の意図について根拠を明確にして考えをまとめさせたいと考えた。さらに、グループの考えを全体の場で共有し、教師が整理しながら重要語句をおさえ、最後に、全体で学んだことを生かし、筆者の意図について一人一人にまとめさせたいと考えた。



(2)講義 講師：県南教育事務所 指導主事 皆川 晃宏

1 授業改善の視点について

岩手県学習定着度調査の経年比較問題を見ると、第2学年「読むこと」の指導事項に課題が見られる。調査結果報告書等を参考に、授業改善に努めてほしい。

2 プロジェクトチームの実践について

「根拠を明確にして自分の考えを表現する」ことについてプロジェクトメンバー3人に取り組んでいただいた。3人の実践を参考に、各中学校でも取り組んでほしい。

3 評価について

評価規準を明確にすること、評価を生徒に返すことはとても重要である。そのことにより、生徒は、「わかった」「できた」を実感することができる。

